女と男いきいきネット

女と男いきいきネットワーク久喜・通信第23号　2015,6,25発行

総会記念リレートーク

女性市議の声を聞く

渡辺昌代議員・成田ルミ子議員・春山千明議員・大谷和子議員

【何をやりたくて市会議員になりたいと思いましたか】

渡辺　二〇〇五年補欠選で落選。二〇〇七年から合併前久喜市から議員になり、三期目に入りました。なぜ補選に出たかというと、このとき教育基本法の改正があり、政治へのからみが危険ではないか、と思ったから。子どもたちの命を守るのは女性の力ではないか、と思う。平和が大切！基本は子どもとともに平和を築いていく―これが、市議挑戦時の決意です。

成田　昨年初当選。縁がありタイミングです。久喜で生まれ久喜で育った。育った町で子どもたちもここです。PTAやボランティア・経験してきたものを市議としてお返ししていきたい。

春山　旧久喜平成十七年の補欠選挙で当選。娘の小学校のPTAをやったが、清久小は市街地の学校と比べると差があり、図書館の蔵書一つを比べても少なく古かった。その時、議会で一般質問という形で取り上げてもらったら図書室も充実してきた。交通安全の看板等も設置できた。要望し続けていたら、市会議員に頼むのではなく自分でやりなさいと言われ、出馬した。久喜市の子どもの環境を整備したい。

大谷　旧鷲宮地区（桜田一丁目）で、PTA中学校の顧問二十年やっているが、学校がどんどん変わっていく。先生のできないことが多くなっている。二十年位前県議の手伝いをした三人のうち誰かで一人町議にたてたいということで、子どもが一番大きかった私が出た。児童ことで行政と折衝していくうちに、子育てをしている時期でないとわからないこともあった。若いお母さんの代表として挑戦し、当選した。十二年目。いつも一番年下だったが、若い人ができて嬉しい。

総会記念リレートーク
～女性市議の声を聞く

【女性議員ならではのこと、ご苦労されていること】

成田　昔の議会では、新人で女性は「この質問はしていいよ」という割りふりがあった。現在はそれもなく、発言できている。会派が大きいからかもしれないが、自由に泳がせてもらっている。最初大変心配したが、男性女性というレベルでの困りごとはない。現在自由に発言できている。専業主婦だったので、生活が一変した。幼稚園から夫と一緒だから、夫も理解している。夫の年齢も給与も上がり、妻に楽をさせたい（？）時期に、妻が市議会に出た。夫の生活設計が変化したか？とも考えるが、市政に送っていただいた方たちのことも思い、感謝を忘れず活動するとともに、夫へも感謝を忘れないよう活動したい。

大谷　旧鷲宮議会では三分の一が女性だった。久喜市議会ももっと増えてほしい。人口の半分は女性だから。議員になったばかりのころから、女性ということで苦労したことはないが、初めのころ田舎なので年配の方が勢力を持っていて、新人には何もさせてくれなかった。久喜市議会になって困ったことはない。よもやま話の中ではあるが、言いかえしているので大丈夫。議員になって生活が一変した。議会中は、土日もない。子どもが小さいときは大変だった。高校生のころからは家事を手伝ってくれたが、社会人になると仕事で忙しくあまり手伝ってもらえない。夫は協力的。

春山　主婦で母あり、嫁であるので、高齢父母の食事の支度をいつも心配していた。掃除は目をつぶるとしても、父母の食事のことはいつも頭の片隅にあった。今は夫と子どもたちになり、夕飯の支度をしなくとも大丈夫、家族に支えられている。嫁が市議の仕事をすることにどうかな？と思ったが、黙っていてくれた。感謝している。旧久喜市議会から合併になり、一市三町になって感じたのは、それぞれの考え方があると感じた。旧久喜市議会のほうが、女性だからという見方はなかった。一市三町になったら、女がここで口出しするんじゃないよ、みたいなことを感じることがある。

渡辺　議員になって、九年目。子どもが乳飲み子の時、母乳を与えながらの議員活動だったので苦労はあった。議案質疑をできるところまでやると、「黙っていればいい女なのに」と言われたこともある。動議をかけられたこともあった。一度病気で休んだこともあったが、健康管理をしなかったことを反省した。家族は協力的。夫は何の苦も無く食事を作ってくれるので、食事作りは夫と当番制。お風呂の掃除も家族で当番にした。末っ子もやる。期末テスト中間テストなども一緒に勉強して、議員活動と家庭を両立させている。

【女性の視点で、これから取り組んでいこうと思うこと】

成田　親の都合で子が巻き込まれる離婚は、心が痛む。心に傷を負う子ども（子どもの貧困）について、市内で働きかけていく。先日も、父親（二度目の父）が子どもを置いて逃げたということがあった。一度目の父に子どもを預けた。が、二度目の暴力的な夫と、妻は離れられない。久喜の施策は手厚い。相談できる人はいいが、子どもにどのような傷を残すかを考えると、大人の都合で子どもの人生を変えないしくみを作りたい。シングルマザーへの市からの補助はあるが、実家に帰ったシングルマザーには出ない。また、老人の収入はきつい。ここを深めたい。

渡辺　女性の貧困、母子家庭の収入の低さ、教育問題に取り組んでいきたい。男性からDVを受けている女性が多い。逃げていく場所「シェルター」もできてはいるが、改善が必要。子どもの虐待、通報時のバック

アップ体制は随分良くなり、携帯・緊急電話に関しては久喜は充実している。が、相談体制が少ない。また、ケアマネも少ない。子育て支援課に二名しかいない。人員を増やしていく必要があるのではないか？国の政策もあり、市だけではできないので、市から国へ声を出していく必要を日頃感じている。

大谷　女性の収入が、男性の収入の六割になり、育児休暇の取得が八割から九割になったが、産休明けに退職した人はカウントされていない。現実は六割くらいかな。少子化が止まらないことも、大きな問題。シングルマザーでも男性並みの収入があればよいが、女性が正規ではなく非正規が多い。女性は時間が決められているので、効率よく働く。女性の長所を見てほしい。また、出産を契機に退職を余儀なくされている現状を解決しなければ、と思う。労働力が足らなくなるのはわかっているのだから…。社会構造が変わらない限り、解決できない。保育所の整備も、課題。私は産休の時、「早く帰れていいな」という同僚の言葉で仕事をやめた。すぐそばに保育所があれば、残業してもすぐ迎えに行けたし、長時間が利用できたのに…と思う。

春山　もっと女性議員が増えていいのでは。政策が打ち出されてはいるが、子育て・介護が女性にかかる比重は大きい。が、女性の力はすごいと思う。また、久喜市では農業が基幹産業であるが、農業の担い手不足が大きな問題である。儲かる農業ができない。農業委員会には、女性は一人だけ。議会選出のみだ。農業の担い手の六割は女性なのに…。ここが問題。今までの農業ではダメ。女性の視点を取り入れるべきである。農作物の果実はジャムに、野菜は弁当にと、加工等に注目していかなければいけない。女性が活躍できるよう、女性の声を市政に届けていきたい。

（まとめ・関口はつ子）

団体から

「ことばと人！」ヒッポの活動

一般財団法人言語交流研究所
ヒッポファミリィクラブ
関根　寿美子

「オラ！」元気良く、会場の扉を開けて、小さい子どもが飛び込んできます。さよならのあいさつは、「再見！」いつもの活動は、スペイン語のこんにちは～から始まり、中国語のさようなら～で終わります。

ヒッポファミリークラブでは、多言語の飛び交う空間を多世代（赤ちゃんからシニア世代まで）で楽しみ、多様性を育んでいます。実践の場を「ファミリー」と呼んでいます。

ファミリーでは、様々な言語が飛び交います。自分の発見や体験を話したり、ゲームをしたり、CDの音を真似したり…。ことばを真ん中に共通のCDをおもちゃにして、世代を超えて楽しんでいます。また、ホームスティ交流は年間を通じて実践されています。久喜地域では、昨年シニア世代の方がロシアのサンクトペテルブルグへのホームステイにチャレンジ。とても温かい交流でした。今年の夏には小六から・大人まで様々な年代のメンバーが、海外でのホームスティの冒険に行きます。留学する高校生も二人います。（アメリカとフランス）

これらの全ての事を通して国や文化、ことば、習慣、人種の違いを超えて、どんな人にも同じ人間として心を開いて「ことばと人」に向き合います。それは、内側の気持ちからコミュニケーションを求め、ことばを獲得していく道筋でもあるかも知れません。

マレーシアの高校生を囲んで

個人会員から

「職場のメンタルヘルス」

松本　陽子

個人会員の松本陽子です。地元の久喜で社会保険労務士の仕事をしています。なかなか活動に参加できずに申し訳ありませんが、お送り頂く資料などで皆さんの活動などを拝見しています。

五年ほど前から厚生労働省の事業として、メンタルヘルス対策に取り組みたい企業への情報提供やサポートを行っており、私もその事業に携わっています。具体的には、職場でのメンタルヘルスの体制を整えたい、管理者研修を実施したい等のご要望があった際に、ご相談に対応したり、セミナー講師を担当します。

この仕事に携わるうちに、メンタルヘルス（＝心の健康）について、もっと勉強する必要があるなぁとヒシヒシと感じるようになり、四月から「産業カウンセラー養成講座」に通い始めました。

講座では「傾聴」の実技の時間がたっぷりあります。カウンセラーは傾聴がメインで、基本的にはアドバイスはせず、クライエント（相談者）が、自ら考え、行動できるようになること見守ります。傾聴するときは自分の物差しで聴かないようにする、ということも大切なため「価値観ってホントに人それぞれ」と実感するグループワークがふんだんに取り入れられています。

「カウンセリングによる問題解決」と聞くと難しいイメージもありますが、ちょっと人と話しただけでも「あ～、スッキリした！」という経験はよくあります。この「ちょこっと会話」も、心の不調を予防するのに、とても役立っていると思っています。

いきいきネット加入団体

ABC工房	エムツー	久喜おやこげきじょう
久喜きょういくを考える会	久喜市くらしの会	久喜市商工会女性部
久喜市舞踊協会	詩吟教室学心会	久喜地区婦人会
グループ・フォー	くきCAP	オリーブの会
新日本婦人の会久喜支部	ヒッポファミリークラブ	杉の子会
ネットワーク子どもがまんなか久喜	女性問題学習グループ・なの花会	NPO法人子育てステーションたんぽぽ
ＮＰＯ法人ハローハンディキャップ・タイム	久喜地区更生保護女性会久喜部会	その他個人参加者８名

【編集後記】

うつと腰痛で就労できず生活保護受給を余儀なくされている友人の単身女性が、昨年の生活保護基準引き下げを不服として取り消しを求め本人訴訟で闘っている。

先日の日経ビジネスオンラインには「女性の貧困の中身が変わった。昔はDV夫から着の身着のままで逃げてきた結果の貧困。あるいは、夫が作った借金に追われての貧困。貧困の背景には〝家族〟がいた。だが、今の貧困は単身女性にある。夜には気絶するほど働いて、それで月十二万円。贅沢品を買う買い物依存からくる金欠ではなく、働いても働いても生活できない貧困。これをどう救えばいいのか。」とあった。

「女性の貧困」「子どもの貧困」――国は、この現実をどう受け止めどう解決しようとしているのか？緊急の課題である。

（K）

【発行】
女と男いきいきネットワーク久喜
代表　倉持睦子(22)4545